

CMSで成功した サイト運営の真実

導入事例が明らかにした最新ツールの威力

企業のウェブサイト運営においてCMS（ウェブコンテンツ管理システム）を導入すると、作業が効率化できて適切な情報発信の環境を整えられることは漠然とわかっていても、実際に自分のサイトをCMS化するまでに踏み切れていない運営者も多いようだ。なぜサイトの運営にCMSを導入するのか、導入の作業期間は、導入の効果は、実行してわかったサイト運営の真実を、CMSで成功した3社に聞いてみた。

聞き手・文：加藤さこ

事例 1

混沌としたサイト構成を整理するとともに現場による即時更新を実現

中小企業基盤整備機構

導入CMS：DBPS（パナソニックデジタルネットワークサーブ）

組織の統合を機に CMSを導入

中小企業基盤整備機構は、多岐に渡る事業を展開しており、たとえて言うならばいろいろな会社がたくさん集まったような組織体だ。そういった背景もあり、サイトを運営するうちに各事業部門が独自に作成したページが増大し、そのせいでデザインも構造も全体で統一が取れていないバラバラな作りになってしまった。トップページに戻れない、不規則に新しいウィンドウが開いてしまうなどの問題も発生していた。そこで7月1日の3法人の統合を機に、CMSを導入してサイトの作り直しをするようになった。

「これまで、ページの更新は、各部署から送られてきた原稿を広報課がとりまとめてサーバーにアップする方法でした。原稿は部署によって電子メールやフロッピーディスクなどで送られてきて、内容もホームページビルダーで作成したもの、HTMLの手書きデータ、ワードの文章を貼り付けたもの、はたまた封筒で送られてくる手紙など、まったくバラバラでした。データのアップだけでなく、ページ自体を広報課で作成することもしばしばあり、更新の締め切り日には本当に大変でした」と担当者の佐藤氏は導入前の状態を振り返る。

広報課が全部署の情報を更新するの

で、内容の修正は月に2回しかできない。これでは情報公開のタイミングが遅いのでニーズに合わなくなってしまった。さらに、サイトの構成が混沌とした状態なので、どのファイルを開いてどこを修正すればいいのかわからない。何年かぶりに法律が変わって情報を更新しようとしても、当時の担当者がいなくて更新する場所がわからないといった事態にも陥った。

CMSを導入しようと決めたのは、このような「どうしようもなくなっていた」問題を解決してこれまでの雑然とした作りを一掃し、1つの団体のウェブサイトとして統一

感を持たせて、さらに更新や管理を楽にするためだった。

既存データは1か月で移行 社員教育に力を注ぐ

サイトを2004年7月にリニューアルする予定でCMSの導入プロジェクトを2003年から開始し、どのメーカーのCMSを採用するかを決め、サイトの分析を行い、予算の確保を待っていた。実際にゴーサインが出たのは2004年5月。あわただしいスケジュールとなったが、既存サイトのデータはウェブ制作会社「ウェブ・ワーカー

Site & CMS DATA

[サイト情報]

中小企業基盤整備機構ウェブサイト

<http://www.smrj.go.jp/>

全国の中小企業の事業者向けにビジネス運営、資金、人材育成などの支援情報を公開しているサイト。総ページ約4000の大規模サイト。ページビューは100万/月。

[導入CMS情報]

DBPS（データベースパブリッシングシステム）

<http://dbps.pdn.co.jp/>

パナソニックデジタルネットワークサーブ

- ・サーバーインストール型
- ・静的HTML生成型



[導入情報]

- ・サイト全体をCMS化
- ・導入準備期間：6か月
- ・導入作業期間：2か月
- ・導入プロジェクト人数：約10人
- ・導入費用概算：約2,000万円（プロジェクト全体）
- ・コンテンツ作成者数：数十人

- ・無秩序に膨らんで收拾が付かなくなったページを整理整頓したい
- ・デザインを統一して一貫した見やすいサイトにしたい
- ・ウェブ作成に時間を取られていた広報課の仕事を効率的にしたい

ズ」のスタッフが10人ほどのチームでCMSに移行し、約2000ページを1か月程度で終わらせた。その後、決算情報を書き換えたり、新しいコンテンツを増やしたりして、現在は4000ページ程度になっている。

導入したのは、パナソニックのDBPS。「価格的に取り入れやすく、他に比べて拡張性が高そうに見えたというのが選択した理由です。ユーザーインターフェイスが使いやすい点も魅力的でした。既存サイトのデータのCMSへの移行は、約20パターンほどのテンプレートに合わせて手作業で移植していきました。このリニューアルでサイトの構成をしっかりと作り、グループ別にきれいなツリー状にしたので、以前の混沌とした状態が想像できないくらいすっきりとしたサイトに生まれ変わりました。2000ページものコンテンツをたった1か月で一気に修正するのは、CMSがなければ無理だったと思います」

CMS導入後は、広報課がとりまとめることなく、各部署の担当が自分でページを更新するルールに決めた。大学校や支援センターなどを含めて全部で40ほどの部署それぞれで担当者を決め、1人ずつマンツーマンで研修を行った。パソコンに関する知識がバラバラだったので、わからない人にはコピー&ペーストから教えなければならなかったが、まったくわからない人でも3回ほどの研修で扱えるようになった。

導入前には月に2回程度しかサイトを更新できなかったが、今ではページ作成と承認は各部署に任せているので、各部署が適切なタイミングで自分で更新できるような仕組みになっている。広報課は公開サ

ーバーへのアップ時に問題がないかを確認するだけになった。

「承認権限を各部署に与えているのは、できるだけ現場が使いやすいようにするためです。データを入れたらすぐにアップできるように、手間を省いてわかりやすくしていきたかったんです。さすがにお金がかかる情報などは注意して権限を設定していますが、一般的な情報提供に関してはほぼ自由に更新できます」

問題もあった。広報課のサイト運営業務は楽になったが、ヘルプデスクとしての業務が大変になってしまった。CMSの使い方がわからないので代わりに作成してくれないかという依頼もあったが、そこで広報課が作業をしてしまえば、以前と同じことの繰り返しを招いてしまう。手間はかかるが、できるだけやり方を教えながら一緒に作るようにしていったおかげで、導入から2か月ほどすると、そのような依頼は日に1~2件と激減した。現在ではCMSの使い方に関する質問よりも、「サイトをこうしたいのだが」といった高度な相談をされるが増えたと言う。

CMSで整理されたサイトが組織の見通しまでも改善

こうして最大の問題点だったサイトの整理整頓ができ、情報公開がリアルタイムにできて見やすいページになったが、CMSの導入は意外なメリットも生んだ。

「サイトマップがきれいになったことで、それぞれの部署の業務が把握しやすくなったんです。組織が多いので、以前はど



安藤 修氏
独立行政法人 中小企業基盤整備機構
調査広報部 調査役

らかったのですが、サイトを確認すればすぐにどの部署が何を手がけているのかわかるので、広報課に他の部署から相談が来たときに、どこに回せばいい案件なのかわかって、非常に便利になりました。また、アクセス解析についても、サイト構造がきれいになったためログも分析しやすくなりました。今では担当ごとにアクセス数もカウントしていますし、以前よりも正確に解析できるようになりました」

これまで各種の作業を一手にとりまとめていた広報課では、残業が少なくなり、ウェブ制作に取られる時間が激減し、仕事が効率的になってきた。CMSの導入により、サイトだけでなく、日々の業務も効率がアップしたのだ。

今後の課題は、さらに作業を安定させること。将来的には、手作業を極力カットして、自動的に更新できるようなシステムを構築していけるように進めていく体制を考えている。

- ・現場の担当者が直接更新することで更新頻度が上がった
- ・組織図が見やすくなり、業務の把握や担当者などが一目でわかるようになった
- ・作業が効率化され、残業が減った
- ・アクセス解析が有効にできるようになった

責任の所在が不明確 外注コストも把握不能

昭和シェル石油がウェブサイトを立ち上げたのは、2000年の6月。まだサイトを持つ企業の少なかった時代だ。広報室が中心となり会社内部的なサイトとしてスタートを切った。そして1年後、ふと気づくと大きな問題が発生していた。プロジェクト発足当時からメンバーの1人は、その頃の様子をこう語る。

「社内からもウェブを活用したいというニーズが増え、ニーズを持った各部署が外注業者にページを作ってもらい、トップページからリンクを張るという方法でコンテンツが増加していったため、自由に想像力を働かせた多彩なウェブサイトができてしまいました。シェルグループの基本デザインがあるにもかかわらず、全体を見渡すとブランドの統一感が失われていました。

また、各部署が自分でコンテンツを考えて作成していたために、統合管理をする部署がなく、コンテンツに対する責任の所在が不明確で、適切に管理されていませんでした。あちこちでバラバラに外注を使い、サーバーまで別になっていた部分もあり、ウェブサイト全体でどれくらいのコストがかかっているのかを会社として把握できなくなっていたのです。

これは何とかせねばと、プロジェクトを立ち上げてCMSの導入を検討しました」

140か国展開のグループとして サイト上でもブランドを保つ必要

全世界140か国以上で操業しているシェルグループが、ウェブ上でのブランド価値を気にし始め、きっちりとしたガイドラインを提示してきたのもプレッシャーになった。2001年には、シェルグループの全世界共通のデザインを適用していたが、管理体制がきちん整っていないために徹底できていなかった。このままの体制ではメンテナンスしきれないため、基盤が

ない中で進むことにストップをかけ、決められた仕組みの中で管理するようにしなければいけないという切迫感があった。

問題点を洗い出し、本格的に改革プロジェクトを開始したのは2002年の3月。約3か月間の準備期間でサイト構造、統一デザイン、情報アーキテクチャーなどを決め、CMSを選定してテンプレートを設計した。デザインはシェルグループのグローバルなガイドラインに沿ったものに統一し、ナビゲーションやサイトマップの見直しを行った。当時はグローバルナビゲーションが存在していなかったため、バラバラに作成されたページを1つのサイトに統合して見やすいアーキテクチャーを作ることが目標となった。

どこからでもサイトの 更新作業が可能に

リニューアルだけなら手作業でもよかったが、CMSを導入したのは、サイト管理をシステム化することによって、各部署がコンテンツを簡単に作れるようにするとともに、標準化された運用管理ルールを徹底することを狙うため。

と言うのも、既存のサイトをリニューアルすると同時に、新しく日本のシェルグループのサイトを立ち上げたのだ。

「日本においてシェルと言えば昭和シェル石油を思い出される方が多いと思いますが、シェルグループには石油、ガソリン、灯油のほかにも、天然ガス、石油化学製品、太陽電池などを取り扱う別の会社が存在しています。一般に広く知ってもらうために、日本のシェルグループ全体の活動を紹介するサイトを立ち上げ、いくつかの企業が共同で運営することになったのです。そこで、インターネットにさえ接続していたら、どの会社のどの部署の人でもアクセスして更新の作業ができ、また日本でのサポート体制がしっかりしているものを選んだのです」

実は、CMSを導入するにあたり海外シェルグループがグローバルに用意したCMSも検討したが、そのCMSが日本でも問題なく使えるか、コストパフォーマンスはどうか、その時点でベストな選択なのかなどを検討した結果、最終的にASP型である彼方の「ALAYA」を選んだ。

ASP型のCMSを選んだ一番の理由は、

Site & CMS DATA

[サイト情報]

昭和シェル石油ウェブサイト

<http://www.showa-shell.co.jp/>

製品、サービス、企業情報のほか、F-1情報やゲームなどのコンテンツもある中規模サイト。

シェルグループウェブサイト

<http://www.shell.co.jp/>

日本におけるシェルグループ各社の事業活動や海外シェルグループの情報を提供する小規模サイト。

[導入CMS情報]

ALAYA(アラヤ)

<http://www.kanata-jp.com/alaya/>

彼方

- ・ASP型を選択(インストール型もあり)
- ・静的HTML生成型



[導入情報]

- ・サイト全体をCMS化(一部コンテンツを除く)+ 新規サイト立ち上げ
- ・導入準備期間: 3か月
- ・導入作業期間: 3か月
- ・導入プロジェクト人数: 10人弱
- ・導入費用概算: 非公開
- ・コンテンツ作成者数: 100人弱

解決したかった
問題点

- ・サイトを統合してデザインを統一し、ブランド価値を高めたい
- ・各コンテンツの責任の所在と承認フローを明確にしたい
- ・特別なスキルがない人でもスピーディーに情報発信できるようにしたい

コストの安さ。インストール型のCMSを買って、さらにメンテナンスやバージョンアップにもコストをかけるというわけにはいかなかったのだ。実際、導入してから現在までにALAYAは何度かバージョンアップされているが、導入したい新機能を選ぶだけで、あとは何もなくても新バージョンの恩恵を受けられたのは、ASP型のメリットだと言えるだろう。

また、今回はシェルグループの用意したCMSは受け入れなかったが、将来的にそちらが良くなれば移行を検討する可能性もないわけではない。常に自分たちにとって良いものを選択していくため、フレキシブルに考えていきたいというのがプロジェクトチームの考え方だ。

導入作業はわずか3か月 その後は運営の仕組み作り

リニューアルに合わせて新規コンテンツを作成することもあったが、既存のコンテンツはテキストも画像もできるだけそのままCMSに移行した。

「既存のコンテンツは7～8人程度のプロジェクトスタッフと各部門の人で整理してデータ移行の作業をしました。同時に新しいグループサイトを立ち上げましたが、作業期間は3か月程度でした」

サイト全体のリニューアルではあるが、CMS化しなかった部分もある。たとえば、一般ユーザー向けに作られたモータースポーツ関連のサイトは、会社情報のサイトとは違うコンセプトとデザインなので、そのまま残した。サービスステーションの検索サイトも、地図サービスとつながったデ

ータベースがある動的サイトのため、CMSとは別の管理にしたが、デザインは統一感を出して全体との一体化を図った。

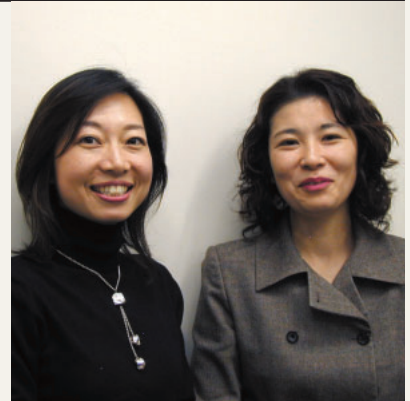
CMSを導入してサイトが立ち上がった後は、各部門の担当者がコンテンツを直接入力する仕組みに変わったため、社内の体制を整える仕事が残っていた。コンテンツの作成や承認に携わる人のアカウントは、すでに100人程度登録されている。サイトを統一された状態に保つには、ルールを定めてガイドラインどおりに作業してもらうことが重要となる。まずは説明会を開き、運用体制やCMSの操作を説明したが、当初はうまく使えない人が多かった。そのため、操作マニュアルや運用体制のガイドラインを作ってイントラにアップし、相談窓口も設置し、個別の相談にも積極的に応じた。

ウェブ制作スキルがなくてもページ作成ができるようになったことで、コンテンツ発信のニーズに迅速に対応できるようになった。これまでは、「時間も手間もコストもかかるから」とウェブ掲載をあきらめていた部署も積極的にウェブ活用を行うようになり、更新頻度も格段に上がった。

ビジュアルに凝ったコンテンツを作る場合は外注することもあるが、その場合は、アクセスできる範囲や期間を限定したアカウントを発行して、外注スタッフにも直接CMSを使ってもらうようにした。

CMS化で明確になった ウェブマスターの仕事

CMSを導入したことで責任の所在が明確になり、統括部門であるカスタマーサー



大山百合子氏(右)
昭和シェル石油株式会社
カスタマーサービス部 カスタマーリソース課 課長

田畑ふじよ氏(左)
昭和シェル石油株式会社
カスタマーサービス部 カスタマーリソース課

ビス部のウェブマスターとしての役割が明確になった。制作や更新は各部署が行い、ウェブマスターはサイト運営の統括管理と、使いやすいツールの提供、ウェブ活用のための啓蒙活動や将来の企画を行うという役割分担がはっきりしたのだ。

さらに、ウェブマスターとしての存在が社内に浸透していくと、以前よりもウェブサイトに関して社内各所から相談が寄せられるようになるというメリットもあった。そのような日々の会話から次にどんな機能がサイトに必要かを把握できるようになり、2～3年スパンの中期計画にも反映できるようになった。

CMSの導入で、いつでも、だれでも、自分で簡単に情報発信ができるようになったのはメリットだが、それは逆に自分で作業しなければいけないことを意味する。今後の課題は、さらに効率的な作業ができるようなシステムにしていこうと思う。

導入して
わかった
CMSのメリット

- ・導入後にサイトデザインを一新したが、コストも労力も少なく実現できた
- ・ルールの明確化により、ウェブマスターと現場の役割が明確になった
- ・ウェブマスターへの相談が頻繁になり、ニーズを汲み上げやすくなった

田舎の商店街風サイトから百貨店的なサイトへ

神戸製鋼所がカタログ情報ベースでウェブサイトを立て上げたのは1995年、まだホームページが珍しかった頃だ。カンパニー制をとっていたため、企画部門、マーケティング部門など、それぞれが独自にサイトを作成し、さらに子会社もそれぞれでサイトを作っていた。できるだけ自由に作ってもらう方針にして、競い合うようにサイトを作らせていたが、気が付くとまったく統一感のないバラバラなサイトができあがっていた。IT企画室の林氏は、CMS導入のきっかけを当時を思い出しながらこう話す。

「2002年の夏に見直しをしました。ウェブサイト関連で有名なあるコンサルタントの方に講演をいただいたとき、「神戸製鋼所のホームページは田舎の商店街、歩ごとに看板が違う、シャッターもディスプレイの配置も違う。これでは駄目だからリニューアルして百貨店のようなサイトを目指すべきだ」と言われました。改めて見てみてサイトの雑然さに愕然とし、何とかしなければと強く意識したんです」

それまでは各部署で自由にページを作っていたため、ロゴの位置やサイズももちろん、色や縦横比までもが微妙に違っていた。また、各ページのデザインは、ロゴがなければ同じサイトのページだとはわからないほど多様で、サイト全体のトップページに戻れない構造も多々あった。と言うのも、神戸製鋼所は素材を主に扱う会社だからウェブサイトで一般の人にアピールする必要はないという意見もあったため、当初はできるだけ敷居を低くして社内の理解を得やすくし、作り手の意識を高めようと、4つほどしかルールを決めなかったのだ。

会社のブランドとして通用するものを出さなければという意識が高まり、サイトに来ている人が使いやすい形に作り変えな

ければいけない、それにはどうすれば良いのか、と模索を始めた。さらに、それまでは年々伸びていたアクセス数が2004年になって下降し始めたことで、本格的に対策チームを結成することとなった。

アクセス解析でわかったユーザー行動との乖離

「2003年12月に、いなかどっとコムの上野さんにアクセス解析してもらったら、トップページ経由でのアクセスは13%しかなく、逆にトップページを見た人の40%は他のページを見ずに去ってしまっていることがわかりました。

当時はなぜかトップページにこだわりを持っていて、そこについてばかり議論していました。しかし、自分の行動を考えても、検索エンジンで検索して、行ったページに欲しい内容がなければ他のサイトに行ってしまうことに気が付きました。

とにかく、現状のユーザーのニーズに合わせて本腰を入れて改善しなければ、サイトを公開している意味がないとまで思ったのです」

デザインの統一だけでなく既存の3000

ページを手作業で修正していくのは不可能だと判断したため、CMSツールを導入した大々的なリニューアルを計画することになり、まずは運営チームを作り、体制を整えることからスタートした。秘書広報部、経営企画部IT企画室、ビジネスサポートの3つの組織によって運営事務局を作り、その下に各カンパニーからコアマスターとして統括責任者を配置して、サイト運営の基盤となる組織を構築した。そして、1月頃からCMSツールを検討し始めた。

ワードに慣れた人なら簡単に使えるツールを選択

「いくつかのCMSツールを検討しましたが、最終的にNORENを選びました。HTMLページ作成の知識が必要なツールが多い中、知識がなくても扱えるものだったこと、カンパニーごとに異なる承認などのワークフローを自由に組み替えられること、すでに実績があってノウハウが蓄積されていること、そして、すでに日常業務でワープロとしてワードを使っている者にとって馴染みやすいインターフェイスが気に入りました。コスト面についても、比較的

Site & CMS DATA

[サイト情報]

神戸製鋼所ウェブサイト

http://www.kobelco.co.jp/

鉄鋼関連事業、アルミ・銅関連事業、機械関連事業など、企業間のビジネス向けサイトだが、一般ユーザーに対しての会社紹介も視野に入れている。全体で約3000ページの大規模サイト。



[導入CMS情報]

NOREN4 Content Server (ノレン4コンテンツサーバー)

http://www.ashisuto.co.jp/prod/noren/

株式会社アシスト

- ・サーバーインストール型
- ・静的HTML生成型

[導入情報]

- ・サイト全体をCMS化(2005年3月に導入完了予定)
- ・導入準備期間:6か月
- ・導入作業期間:6か月(予定)
- ・導入プロジェクト人数:約4人
- ・導入費用概算:約4,500万円(プロジェクト全体)
- ・コンテンツ作成者数:約100人

解決したかった
問題点

- ・企業イメージの統一感のあるサイトにしたかった
- ・訪問者にとって有益で使いやすいサイト構造にしたかった
- ・作成者に過度な自由度を与えるのではなくルールを設けたかった

手頃な価格が魅力でした」

NORENでは、コンテンツを作成するときにワードのデータをインポートしたり、ワードから直接コピー&ペーストしたりできるうえに、普通に入力する場合でも、ワードを使っている人にとってはすぐに馴染める画面構成になっているため、ウェブページ作成のスキルのない人でもストレスなく使えるのが魅力。

しかし、簡単に使えるとはいえ、サイトの構造をどうするか、運営ルールをどうするかは別の問題だ。前出の石井氏の協力を得ながら、デザインや運営などについてのガイドラインを作成した。また、NORENを使ったサイト更新のマニュアルも、自社用に細かく手順を追って解説するものを作成した。

「実際に担当者に入力を任せるには教育も大事ですが、一番重要なのは、後から読み返して確認できる手順書です。更新の作業手順やワークフローを解説したドキュメントを神戸製鋼所のサイト専用の内容で作ってあれば非常にわかりやすいものになります。ドキュメントを作る作業負担は大きいけれど、それが一番。逆に言うと、それがあって初めて、だれでも同じように扱えるシステムになるのです」

SEO効果を狙って各ページに文章を入れるようにしたが、その文字数はデザイン上の都合で36文字までにした。この制限に対しては不満の声が多かったが、こういった細かい決め事は詳細をガイドラインに載せておくことで、担当者の意識にルールとして浸透させるようにした。

さらに、定期的にログ解析でサイトを診

断して訪問者の導線を追い、検索キーワードなども各担当者が見られるようにした。今まで更新内容がどう見られるかを体感できなかった担当者が、これによって効果を把握できるようになり、能動的に更新できるような環境が整った。

また、CMSの導入により統一されたサイトを実現する仕組みができたため、

SEOやアクセシビリティに力を入れる余裕ができた。SEOやアクセシビリティと言うと、BtoCの事例が多く、BtoBの事例が意外に見当たらないために自分たちで試行錯誤しているが、CMSを導入して全体を統一しなければ、これらの作業を開始することすらできなかったらう。

CMSはまだまだ進歩を期待 完成に向けて作業は続行中

サイトをCMS化する作業は今でも続いているが、一番大変なのが既存のサイトにあるデータのCMSへの取り込みだ。手作業で進めているが、これを何らかの形で機械的にインポートできれば、かなりの労力を削ることができるのだが、元のコンテンツが整理されていない状態での自動化は無理があるようだ。実際、この機能を完全に自動化したCMSツールはまだ存在しないようで、どの事例でも問題になっているところではある。

「既存データの移行は、何とかして楽にできるようにするとありがたいですね。短



小原知恵実氏 株式会社 神戸製鋼所 経営企画部 IT企画室
林高弘氏 株式会社 神戸製鋼所 経営企画部 IT企画室 室長
山本修久氏 コベルコビジネスサポート株式会社 PRサービス部 メディア企画グループ

期間での作業は本当につらいです。

うちで導入したNORENでは、登録したテンプレートに対して検索・置換を一括してする仕組みがないので、作業は面倒でした。でもこちらは次のバージョンアップ時に機能が付くということなので期待しています」

10月5日からCMSによるサイト構築の実作業を開始し、約2か月で会社概要などの全社共通項目の移行を終えた。全体の約40%程度の作業が完了した。

ここからは、カンパニーごとに素材系と機械系など、扱う製品も客層も大きく違う内容の作業になる。すべてのページを1つのパターンで扱うのは難しいため、大きく3つの構成を決め、発信したい内容に合わせて組み合わせのパターンを選べるようにした。実際に作業する人が、ドキュメントの構造を意識せずに、発信したい内容に集中できるようにするための。今後は関連子会社を含め、残りのコンテンツを作成し、2005年の3月には全サイトの移行を完了させる予定で作業を進めている。

導入して
わかった
CMSのメリット

- ・SEOやアクセシビリティを考慮できる状態になった
- ・スキルやノウハウがない人でも楽にページを更新できるようになった
- ・制約の中で構成を維持するため、内容の重要性を意識するようになった

2 製品の連携で制作・公開・管理の
シームレスなサイト運営を実現

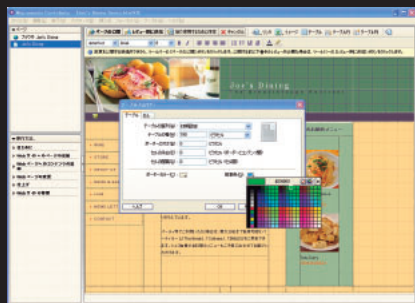
【ASP】【サーバーインストール】

ネットドリーマーズとマクロメディアの協業で誕生するシステムは、既存のウェブサイトにもすぐに導入できる、サイト運用管理の新しいモデルだ。両社の得意分野を融合してはじめて成立するユーザー待望のCMSだといえる。

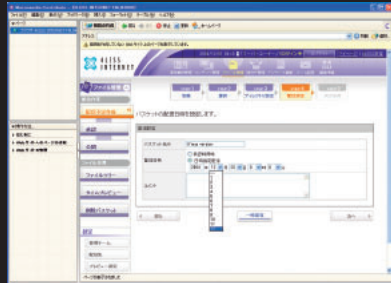
4LESS INTERNET/ Macromedia Web Publishing System

ネットドリーマーズ / マクロメディア

URL <http://www.netdreamers.co.jp/web-magic/>



ウェブページの作成・更新はContribute 3で行う。担当者は権限内の作業しかできないため、ページのデザインや埋め込まれたスクリプトを壊す心配はない。



Contribute 3での作業を完了し「ページの公開」を実行すると、処理は自動的にFILE MANAGERへ引き継がれる。ここではまず公開日時を指定する。



FILE MANAGERを使えば、サイト内のファイルを詳細に管理できる。数世代前の状態を再現したり、今後公開予定のウェブページをプレビューしたりすることも可能だ。

専門知識不要のFILE MANAGER + WPSはCMSの新機軸

「4LESS INTERNET FILE MANAGER」(以下、FILE MANAGER)は、4LESS INTERNETに5種類用意されているソフトウェアの中で、指定したスケジュールに従ってウェブサイトを自動的に更新し、サイト内のファイルや更新履歴を管理するためのものだ。多くのCMSとは異なり、システムに合わせてウェブサイトを再構築する必要がなく、既存のウェブサイトでも導入できるのが特徴だ。

本来、FILE MANAGERでの作業は、ウェブサイトの更新に必要なファイルを受け取る場所から始まった。そのために、WYSIWYGエディターなどのウェブページの制作や編集はDreamweaverなどプロが使用する専用のツールに委ねられていた。

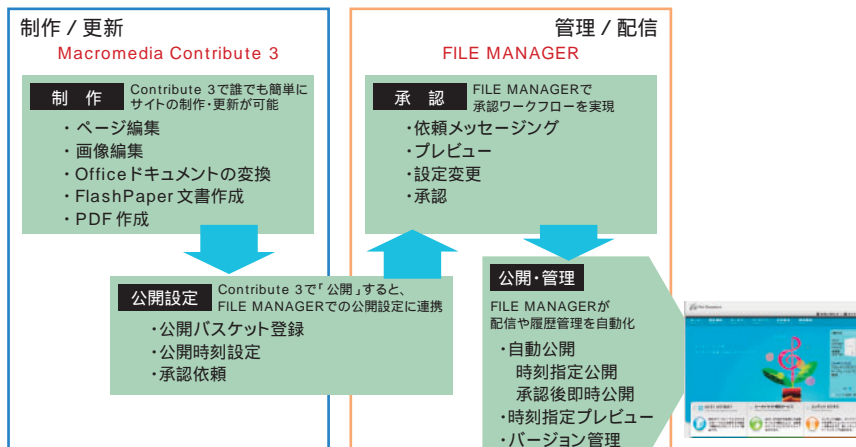
ウェブサイト運用を効率よく進めるには、ウェブページの制作から公開、管理までの作業を専門知識がなくても一貫して行える環境が望ましい。「Web Publishing System」(以下、WPS)とFILE MANAGERの連携により、こうしたシームレスな作業環境が実現する。

互いに機能を補完し合い統合的なウェブサイト運用システムを構築

WPSは、マクロメディアのウェブサイト開発ツールをワンパッケージにした「Macromedia Studio MX 2004 with Flash Professional」(以下、Studio)と、ウェブページの制作・更新を容易にするデスクトップアプリケーション「Macromedia Contribute 3」(以下、Contribute 3) サーバーサイドJ2EEアプリケーションの「Contribute Publishing Services」(以下、CPS)を統合したシステムだ。ウェブのプロフェッショナルがStudioを使ってウェブサイトを開発・構築し、各担当者がContribute 3で自分の担当ページを更新、ウェブ管理者はCPSでサイト管理を行う。

小規模なウェブサイトなら、Contribute 3単独でウェブサイトの更新から管理まで行える。しかし、サイトの規模が大きくなり、サイト運営にかかわる人数が増えると、専用の管理システムが求められるようになる。WPSはこうしたニーズから生まれた。マクロメディアでは、10名を超えるウェブ運営チームにWPSの利用をすすめている。

FILE MANAGERとContribute 3の連携によるサイト運用フロー



サイトの制作から公開・管理までをシームレスに実現

FILE MANAGERとWPSの連携システムを採用すると、担当者はまずContribute 3でページを編集する。Contribute 3は誰でも簡単に操作できるため、担当者自ら編集作業を行える。編集が完了し、Contribute 3の「ページの公開」ボタンをクリックすると、FILE MANAGERに処理が移る。このとき編集したファイルやディレクトリー情報なども、FILE MANAGERに渡される。ユーザーは、同じContribute 3の画面で作業を進められ、あらためてFILE MANAGERにログインする必要もない。これが連携システムのメリットだ。

FILE MANAGERでは、更新したファイルの公開日を指定するだけでいい。承認権限を持つユーザーがページを承認すれば、新しいファイルは指定した日時に自動的にウェブサーバーにアップロードされると同時に、バージョン管理される。

FILE MANAGERとWPSの連携システムは、専門知識を持たないユーザーが共同でサイト運用に携わっている分散環境での効力が大いに期待できる。たとえば、複数の部署が共同でイントラネットを運用している企業や、局や課をまたがってサイトを運用する官公庁、チーム単位や外部の制作会社とも連携してサイ



トを運用している企業などだ。

また、ソフトウェアライセンス価格が、FILE MANAGERは84万円から、WPSは31万5千円からと手頃な価格設定も魅力的だ。従来のCMSでは問題になりがちな、高価な投資でそれだけの費用対効果が望めるのかといった疑問を抱くユーザーでも、この価格帯ならたまために導入しやすいことだろう。

5つのソフトウェアで7つの機能を実現する4LESS INTERNET

サイト運営に必要とされる「専門技術・知識」「プログラミング」「コスト」「マニュアル」の4つの負担からユーザーを解放。そんな意味が込められた「4LESS INTERNET」は、FILE MANAGERのほか、HTML知識なくブラウザからウェブページを更新できる「CONTENTS MANAGER」、簡単にアンケートやメール配信、顧客管理ができる「CAMPAIGN MANAGER」、ユーザーサポートなど顧客からの問い合わせ業務を効率化する「SUPPORT MANAGER」、サイト運営業務を集中管理する「OPERATION MANAGER」の5種類のソフトウェアで構成されている。

いずれも単独あるいは複数を組み合わせて利用でき、サイトの規模や用途に合わせて優先順位の高いものから導入して順次拡張することが可能だ。発売から1年半足らずで、イツコム、三洋電機、東芝EMIなど、28社に対して60製品以上を納入した実績を持つ4LESS INTERNETは、利用者の環境に合わせてシステムを構築できるユーザー指向のCMSだといえるだろう。

問い合わせ先
株式会社ネットドリーマーズ
 TEL 03-5114-8646
 sales@netdreamers.co.jp

製品詳細と機能対応状況

項目	回答(機能あり:、機能なし:×、オプション:)	
対象規模 / 種類	5製品の選択により、小中規模から大規模、エンタープライズまで対応	
ライセンス形態	全ソフトウェア、基本的に1インストール = 1ライセンス	
価格	FILE MANAGER(84万円)、CONTENTS MANAGER(189万円)、CAMPAIGN MANAGER(283.5万円)、SUPPORT MANAGER(346.5万円)、OPERATION MANAGER(231万円)	
オプション機能 / 価格帯	FILE MANAGER WPS連携(標準価格内)、FILE MANAGER SiteTracker連携(標準価格内)、CONTENTS MANAGER SiteTracker連携(標準価格内)、FILE MANAGER SEOオプション(要問い合わせ)、4LESS INTERNET ECソリューション(要問い合わせ)	
典型導入パターン	サイトの目的・規模によってさまざま。ECサイト、コーポレートサイト、イントラネット(ナレッジマネジメント)など	
典型導入価格例	1stSTEP...FILE MANAGER:210万円(導入費用+初年度サポート費用込みで300万円前後から) 2ndSTEP...CONTENTS MANAGER:189万円(導入費用+初年度サポート込みで300万円前後から。テンプレート制作はHTML知識があれば簡単に可)	
稼働環境 (対応サーバーOS / 対応RDBMS / 対応モジュール)	Linux Kernel version 2.12.2/2.6 (RedHat6.x/7.x/8.x/9.x/AS/ES,TurboLinuxなど) / MySQL 3.23.41以上、PostgreSQL 7.1.3以上 / Apache 1.3.x以上、PHP 4.3.8、mail: Postfix/qmail/sendmail	
管理者・運用者向けの機能	公開承認	ドメイン管理のように、1人のスタッフが複数チームにまたがって異なる権限を持つことが自由に設定可能
	作業役割 / 権限分担	DBコンテンツから通常のHTML、Flash、画像、CSSまですべて対応
	時間指定発行 / 時限発行	FILE MANAGERではファイルごとに世代管理、CONTENTS MANAGERは記事レコードごとに世代管理可能
	世代管理	ページのチェックだけでなく、時刻を指定してサイト全体をレビュー可能
	ステージ管理 / ロールフォワード	ディレクトリー構造をファイルツリー形式で管理可能
	サイト階層構造管理	リンク先だけでなく、被リンク検索も可能
	リンク切れチェック	オプション対応
	別システムのユーザー認証利用	CONTENTS MANAGERではHTMLをそのままデザインテンプレートとして利用できる。FILE MANAGERはContribute 3との連携でDreamweaver標準のテンプレート・ライブラリー管理や編集領域設定、CSSの高度な指定などが可能
	デザインテンプレート管理	ログ出力はもちろん、Site Tracker7との連携機能を提供
	ログ解析	Contribute 3との連携でエディティング機能を用意
実現する機能	WYSIWYGエディター搭載	FILE MANAGERおよびCONTENTS MANAGERともに対応
	XMLデータ処理	× テンプレートの作りで自由に対応(製品は実装する必要なし)
	シンクレーション	SEO対策は自由に対応可能
	ファンダリティー	FILE MANAGERは「サイト取り込み機能」で既存のHTMLサイトを数分 - 数十分で取り込み可能
	マイグレーション 移行 ツール	CAMPAIGN MANAGERで対応
	利用ユーザー登録	CONTENTS MANAGERのAPIとツールを使用して対応
	サイト内検索	APIを通じて連携・カスタマイズ可能
	業務システムとの連携	テンプレート対応可能。ページ自体の自動生成やキャリア変換・機種判定は、他社製品連携などで対応可能。また携帯専用ASPサービスも提供
	静的HTML自動生成	ページ自体の作り方やテンプレートの制作レベルで対応
	ケータイ対応	CONTENTS MANAGERのテンプレートの制作で、メニューやRSSの生成も可能
アクセシビリティ基準対応	CONTENTS MANAGERやCAMPAIGN MANAGERでBBSの作成は可能	
新着情報 / サイトマップ / ナビゲーション自動作成	CAMPAIGN MANAGERで対応。さらに顧客データベースへの反映やアンケート結果からのターゲットメール配信まで対応可能	
コミュニケーション		

製品や機能の詳細は要問い合わせ

現場志向で卓越した機能性と
先進性を兼ね備える

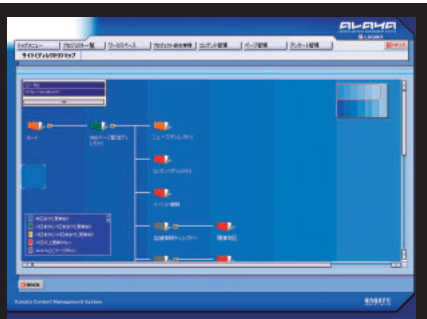
【ASP】【サーバーインストール】

ALAYA

彼方

URL <http://www.kanata-jp.com/>

彼方コンテンツマネジメントシステム「ALAYA」は、数多くのウェブサイトの制作と運営の現場で培ったノウハウを集約しつつ成長を重ねてきたウェブ用CMSだ。J2EE、EJB、XMLの最新ウェブ技術の採用で親和性や拡張性に優れ、システム間連携を強力にサポート。幅広いタイプのウェブサイトに適応できる柔軟性が特徴だ。



管理画面のサイトマップはFLASHで作られている。各ディレクトリの状態が一目でわかる。



ALAYAのトップ画面。マニュアルを見なくても視覚的にわかりやすく、操作しやすい構成になっている。

画像などの素材(コンテンツ)を一覧または検索して表示。確認や修正、移動、コピーをここで行う。

システム単体ではなくソリューションとして提供されるウェブ用CMS

ALAYAを提供する彼方株式会社は、CMS製品のシステムベンダーではなく、ソリューションベンダーとしてのスタンスをとる。というのも、CMSはウェブサイトのリニューアルのタイミングで導入されることが多く、システムを導入するだけで話は完結しないため、目標を実現するにはユーザーは何をすべきかが常に課題になるからだ。ALAYAにもその精神は引き継がれ、XMLでウェブサービスと通信するインターフェイスを持っていたり、モジュール化された機能を追加したりできるなど、ユーザーの要望に応じた高い拡張性を実現している。

また、ALAYAにはサーバーインストール型とASP型の2通りの導入方法があり、どちらを選んでも機能差はない。すでに自社でサーバーを運営していて管理者もいるのであればインストール型を、専任のサーバ

ー管理者を置けない広報・宣伝部門で運用するならばASP型をというように、純粋に利用形態やニーズに合わせて導入方法を選択できる。

キーワード分類やアンケート集計などよりよい使い勝手を提供

ALAYAの持つ機能でも特にユニークなのが、キーワードによる分類機能だろう。ALAYAでは各ページにキーワードを設定でき、そのキーワードを基にページを分類してインデックスを自動で生成できる。キーワードは同時に複数設定できるので、目的別や対象者別など多面的な切り口のページ構成で、サイト利用者は数クリック以内で必要な情報に到達できる。

この「カテゴリーインデックス自動生成機能」は神奈川県藤沢市のサイトで活用されており、さまざまな動機や目的を持って来訪する利用者に対して情報への導線を複数配置でき、住民本位のサイト構築を実現している。なお、藤沢市では2004年7月にデザインの統一とアクセシビリティ対応を施した新サイトをリニューアルオープン。ALAYAの導入により、約250名の職員が細かな規制を意識することなく定型の項目に入力するだけでアクセシビリティ対応のページを自動的に作れるようになった。

また、XML形式やCSV形式でデータの入出力ができるオプションの「XMLアンケートマネジメントシステム」にも注目したい。これはプログラミングやHTMLのコーディングが不要で、ブラウザ上の操作だけで分岐や合流があるような複雑なアンケートページを作れる高度なシステムだ。データの不正取得を防ぐ堅牢なシステム設計で安全性を確保している点も見逃せない。

問い合わせ先

彼方株式会社

TEL 03-5728-6090

info@kanata-jp.com

製品詳細と機能対応状況

項目	回答 機能あり: 、機能なし: x、オプション: ()	
対象規模	小中規模サイトからエンタープライズ規模まで幅広く対応。豊富な実績あり	
ライセンス形態	プライマリエディション(ユーザーアカウント20、ページテンプレート20まで) / エンタープライズエディション(ユーザーアカウント100、ページテンプレート100まで) ¥1	
価格	ASPタイプ(導入基本料: 350万円~、月額利用料: 20万円~) / インストールタイプ(導入基本料: 350万円~、年間保守料: 70万円~) ¥2	
オプション機能 / 価格帯	XMLアンケートマネジメントシステム *3(導入基本料: 90万円~、月額利用料: 5万円~) / コンテンツ一括登録マネージャ *4(提供価格: 30万円~、年間保守料: 6万円~)	
典型導入パターン / 典型導入価格例	ASPタイプ / ライセンス費用の2倍程度(ただし、業種やサイトの規模、移行作業、カスタマイズの有無などにより費用は変動する)	
稼働環境 (対応サーバOS / 対応RDBMS / 対応ミドルウェア)	RedHat Linux、Microsoft Windows Server / PostgreSQL、Oracle / JBoss/Tomcat、WebLogic Serverなど *5	
管理者・運用者向けの機能	公開承認	承認フローは何段階でも可能。公開についてのユーザー権限には2種類あり、承認がないと公開できない公開権限と、承認がなくても公開ができる公開権限の設定が可能
	作業役割 / 権限分担	各個人の権限を含めた一連の作業内容を「プロジェクト」として設定。「プロジェクト」をパターン化した「プロジェクトテンプレート」機能によりコンテンツ種別ごとの作業開始設定を簡素化
	時間指定発行 / 時間発行	公開と非公開を日時で指定可能
	世代管理	コンテンツ単位、ページ単位、サイト全体の単位で過去の状態へ戻す機能あり
	ステージ管理 / ロールフォワード	プレビューでページ間遷移をたどる「サイトプレビュー」が可能
	サイト階層構造管理	サイトの階層構造は、Flashを使いビジュアルに表現
	リンク切れチェック	サイト内、サイト外ともにチェック可能
	別システムのユーザー認証利用	外部LDAPとの連携が可能
	デザインテンプレート管理	テンプレート作成はHTMLをベースとしており、特殊な技能がなくても作成、変更が可能
	ログ解析	別途ログ解析システムを適用
実現するサイトで	WYSIWYGエディター搭載	クライアントのActiveSquareと連携させ、ALAYA内でWYSIWYGエディターを使用したページ編集が可能
	XMLデータ処理	ALAYA本体、アンケートマネジメントシステムともにXMLデータの入出力が可能
	シンジケーション	RSSで配信可能
	フィードバック	
	マイグレーション(移行)ツール	コンテンツ一括登録マネージャにて既存コンテンツを移行可能
	利用ユーザー登録	準オプション機能として提供可能
	サイト内検索	別途サイト内検索システムを適用
	業務システムとの連携	XMLでのデータ連携が可能
	静的HTML自動生成	基本機能
	ケータイ対応	1回の入力で、複数メディア向けのページを同時生成
アクセシビリティ基準対応	テンプレート機能にて対応	
新着情報 / サイトマップ / ナビゲーション自動作成	基本機能(インデックススレイアウト機能)	
コミュニケーション	別途掲示板システムを適用	
アンケート	オプションの「XMLアンケートマネジメントシステム」で利用可能	

*1 いずれのエディションもASPタイプとサーバーインストールタイプがある *2 プライマリエディションの場合の料金 *3 ウェブ上でのアンケートシステムをHTMLコーディング、プログラム開発不要で構築できるツール *4 HTMLファイルをドラッグアンドドロップすることで、使用されているコンテンツを含めてALAYA内に一括で自動登録するツール *5 XMLアンケートマネジメントシステム(オプション) 利用の場合、アンケートサーバーはPerl 5.6.0以降が必要

DBPSはコンテンツ制作ノウハウのあるパナソニックデジタルネットワークサーブが提供するCMSツールだ。ウェブCMSとしての機能はもちろん、「使いやすさ」や「導入のしやすさ」にも配慮され、最近では携帯電話向けコンテンツ配信やウェブページの改ざん対策機能も追加するなど、管理者により優しく、安全な環境を提供している。

データ放送やウェブサイト制作事業で
培った技術を応用



【サーバーインストール】

DBPS

パナソニックデジタルネットワークサーブ

URL <http://dbps.pdn.co.jp/>

使いやすく導入しやすい ウェブ用CMSツール

DBPS(DataBase Publishing System)は、HTMLの専門知識を持たなくても記事を追加でき、ユーザー権限による承認・進捗管理やタイマー設定での自動更新、将来公開するサイトの状態を事前に確認できる「タイムスライスプレビュー」など、ウェブサイト用CMSツールとしてシンプルながら必要十分な機能を揃えている。完全国内自社生産のため、細かい機能の追加やカスタマイズには柔軟な対応が可能だ。

またパナソニックデジタルネットワークサーブ(PDN)の持つコンテンツ制作事業のノウハウから、システムの提供だけでなく、CMS導入時のコンテンツ制作にかかわるサポートサービスが用意されており、初めてCMSを導入する企業でも安心してCMSへの移行作業を行

うことができる。さらにシステム開発経験がないウェブ制作者でも、ノンプログラミングで簡単に導入できる点もDBPSの特徴だ。

加えて、PDNはもともとデータ放送向けのコンテンツ事業を手がけていたこともあり、テレビ画面独自の見せ方や操作性に関するノウハウが豊富だ。DBPSはテレビ画面でインターネットコンテンツが見られる「Tナビ」のポータルサイトに採用されているほか、CATVを使った自治体の情報発信サービスの用途で使われているケースもある。

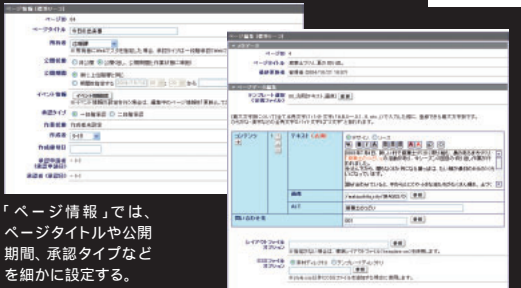
300種類以上の携帯端末対応や ウェブページ改ざん対策を実現

DBPSは常に顧客のニーズに応じた機能強化を図っている。最近では、急増している携帯電話へのコンテンツ配信の需要に対応するため、ノイアンドコンピューティング社のコンテンツ変換ゲートウェイ「ELIXIR」とDBPSとをシステム連携させた。これにより、NTTドコモ、au、Vodafone対応の携帯電話向けコンテンツ配信を実現している。

また、近年のセキュリティ問題に対応するため、ウェブページ改ざん対策機能をオプションで用意。JNS社の「isAdmin for Web Pro」とのシステム連携により、ウェブページの不正な書き換えを検知すると管理者にメールで通知して自動的にページを復元する。ページ数の多いウェブサイトであっても、これを活用すれば万が一の場合にも管理者の手間を大幅に削減できる。このほかにも、ウェブサイトの新着情報をメールで配信するオプション(HDE社の「HDE Customers Care」)もあり、積極的な情報活用が期待できる。



DBPSのプレビュー画面。右側のタブをクリックしてページ情報や編集画面に切り替える。画面上部にサイト構成が表示される。



「ページ情報」では、ページタイトルや公開期間、承認タイプなどを細かに設定する。

テキストの色の変更や画像の差し替えなど、いたってシンプルな記事編集画面。

製品詳細と機能対応状況

項目	回答(機能あり:、機能なし: x、オプション:)	
対象規模	主に小規模(数十ページ~数千ページ程度)のウェブサイトの構築を主目的とするものがメイン 近々大規模サイトも完全対応予定	
ライセンス形態	ソフトウェア本体は、管理者のユーザー数と管理するページ数を組み合わせた数で金額が異なる	
価格(導入価格参考)	ソフトウェアライセンス: 100万円台~(導入や保守費用を含むと200万円台~)	
オプション機能/価格帯	改ざんリカバリ機能*1、アンケート機能*2、メール配信連携オプション*3、携帯端末マルチキャリア対応*4(すべて価格は要確認) その他自治体サイト向けオプションもあり	
典型導入パターン/典型導入価格例	企業の広報・IR部門を窓口にした企業サイトへの導入、製品・サービスの紹介ページ、自治体などのアクセシビリティに対応したサイト、大学・専門学校などの広報向けのサイト*5 / コンテンツ制作ハードを除き、300万~500万円	
稼働環境 (対応サーバーOS / 対応RDBMS / 対応ミドルウェア)	Windows2000 Server(SP4) / Windows Server 2003 Standard/Web Edition, RedHat Enterprise Linux AS/ES 3, Turbolinux 10 Server(予定) / MySQL 4.X / Apache 2.X, Sun JDK 1.4.X, Tomcat 4.X*6	
管理者 運用者 向けの機能	公開承認 作業役割 / 権限分担 時間指定発行 / 時限発行	1段階もしくは2段階の承認フロー。承認の取り下げや差し戻し理由の記述が可能 ユーザーごとに権限を振り分け管理可能 公開開始および終了の設定機能あり。ページ単体ではなく、リンク先の影響分析を行い、自動更新
	世代管理 ステージ管理 / ロールフォワード	サイトツリー単位に履歴を管理する機能(ルート切替機能) 作成したコンテンツをプレビューする機能(タイムスライスプレビュー機能)
	サイト階層構造管理 リンク切れチェック	階層構造をサポートしており、無段階にサイト階層を管理可能 DBPS内のリンクは、システムで管理。常に影響分析を行っている
	別システムのユーザー認証利用 デザインテンプレート管理	LDAP対応オプションにより可能 ページ単位で、デザインの雛形になるテンプレートを登録可能。その他画像やHTMLソースを素材として管理できる
	ログ解析	公開するコンテンツは通常のHTMLとしてウェブサーバーに格納するため、アクセスログは既設のログ解析ソフトなどがそのまま使用可能
	WYSIWYGエディタ搭載	文字色、文字サイズ、文字体などの編集が可能。フルエディタはオプション対応
	XMLデータ処理	出力のみ可能
	シンジケーション	RSSを次期版にて対応予定
	ファインダビリティ	ページごとにメタデータ入力が可能
	マイグレーション 移行 ツール	x データの移行ツールを準備する予定。コンテンツ移行サービスは実施中
ウェブサイトで 実現する機能	利用ユーザー登録	別システムとの組み合わせで可能
	サイト内検索	キーワード検索あり。自然文検索機能はオプション カスタマイズ対応
	業務システムとの連携 静的HTML自動生成	
	ケータイ対応	オプション対応
	アクセシビリティ基準対応	通常のHTMLを使用しているため、アクセシビリティ、ユーザビリティに対応したHTMLを準備すれば問題なし
	新着情報 / サイトマップ / ナビゲーション自動作成	オプション対応
コミュニケーション	アンケート オプション対応	

*1 公開中のサイトの外部からの改ざんを検知し、自動復旧するシステム *2 ウェブブラウザから簡単にアンケートを作成でき、集計結果などが確認できる
*3 DBPSの更新情報と連携が可能なメール配信システム *4 NTTドコモ向けのコンテンツを用意すれば、3キャリアへの配信が可能になる仕組み *5
DBPSはウェブ専門担当者がいないため、簡単なレベルのページも現場で更新作業が行っていないウェブページの更新頻度が高く、社外や社内で対応し
きれない「組織ごとにウェブページを運営しており、統一した公開ルールが設けられていない」「組織ごとにデザインが不統一で、ビジュアルの統一ルールが守
れていない」などの課題を持つユーザーに適している *6 OS、ミドルウェア構成については、製品改善のため予告なく変更される場合がある

問い合わせ先
パナソニックデジタルネットワークサーブ株式会社
TEL 03-3538-3565
dbps@ml.jp.panasonic.com

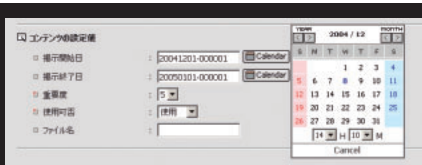
サイト規模に応じて
導入・拡張が可能

【ASP】【サーバーインストール】

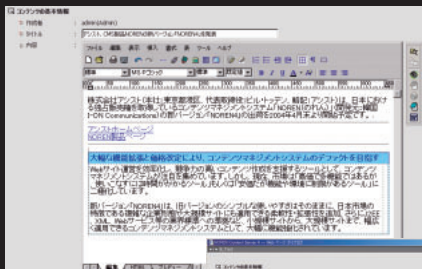
NOREN4

アシスト

URL <http://www.ashisuto.co.jp/prod/noren/>



NOREN4の公開スケジュールの登録画面。スケジュールはカレンダーを利用して簡単に指定できる。



内蔵のウェブエディターでワープロ感覚で記事を作成できる。HTMLタグやプレビュー画面の表示はタブを切り替えるだけ。

承認フローの画面、どのような経緯で承認されたかを一目で確認できる。承認は10段階まで設定可能。

徹底した「使いやすさ」へのこだわりから生まれたCMS

企業のウェブサイトでは、規模が大きくなればなるほど、コンテンツ作成者、ウェブ管理者、承認者といった各担当ごとにそれぞれの悩みや問題を抱えて運営しているのが実情だろう。NOREN4は、そんな担当者の苦悩を解決に導く極めて有効な機能の数々を搭載している。

たとえば、「使いやすさ」に徹底的にこだわり、NOREN4にはワープロ感覚で使

るウェブエディターが内蔵されている。これにより、文字を入力するだけで、あらかじめ用意されたテンプレートに沿ったリッチなページを作ることができる。つまり文字入力さえできれば誰でも新しいページを追加できるというわけだ。HTMLの専門知識を持った人でなくても、ウェブサイト運営に携わるすべての担当者が質の高いコン

「暖簾」に由来した名称を持つ「NOREN4」は、その名が示すとおり、企業の「顔」とも言えるウェブサイト、高いクオリティーを持って効率よく管理・運営する仕組みを提供する。韓国で業界一位を獲得した実績の下、卓越した使いやすさと考え抜かれた機能の数々で、慢性的に抱えるサイト運営の悩みを根本から解決してくれるだろう。

テンツをスピーディーに作成できるのだ。そのうえ、Microsoft Wordなどともシームレスに連動し、普段使い慣れたアプリケーションでコンテンツを作成することもできる。

ただ、コンテンツの作成が誰にでも可能となると、確認 承認 公開といった承認フローの部分で混乱が生じ、結果としてミスが発生することも考えられる。そこで、NOREN4では、コンテンツの承認者と承認の流れを明確化し、ワークフローとして自動化することで、問題の発生しにくい運営体制を構築する。

また、NOREN4のテンプレートはHTMLベースで構築されているため、Macromedia Dreamweaverや Microsoft FrontPageを使って、自由度が高く、統一感のあるウェブサイトを作成することもできる。

導入しやすい価格体系 将来に対する拡張性も考慮

NOREN4は使いやすさに加えて、展開のしやすさも特徴だ。価格体系をサイトの規模によって3つに分け、規模や予算に合わせて小さいクラスから始められる。導入がしやすいうえに、将来の拡張性も十分考慮されているのでサイトの成長に合わせて拡張できる。

また、NOREN4を提供するアシストでは、CMSの運営に不可欠となる教育コースやセミナー、導入支援サービス、コンサルティングなどを手厚く用意している。せっかく高機能で使いやすいCMSツールを導入したとしても、それを各担当者が実際に使いこなさなければ意味がない。NOREN4を導入すれば、教育を含めたサポートまでも総合的に提供されるため、すぐに運用が可能だ。

問い合わせ先

株式会社アシスト
NOREN 事業推進室
TEL 03-3437-0688
noren_mkt@ashisuto.co.jp

製品詳細と機能対応状況

項目	回答 機能あり: 、機能なし: x、オプション:)	
対象規模	規模には依存せず、小規模から大規模エンタープライズまで対応可能	
ライセンス形態	Enterprise Edition(ASP対応も可能) / Standard Edition、Light Packの3種類	
価格	480万円～	
オプション機能 / 価格帯	オプションのモジュールはなし	
典型導入パターン / 典型導入価格例	大企業のコーポレートサイト、テレビ局、不動産業、自治体、新聞社、企業のイントラネットなどさまざま。たとえば、現場の担当者がコンテンツ作成を行ってコンテンツ量の増加を狙うサイト、サイトの複製やコピーによる横展開を行うサイト、企業内でのサイトにかかわる組織や人が多いサイト、1つのコンテンツの配信までに何人もの承認が必要なサイトなど / ソフトウェア費用以外に、保守サービス、教育サービス、導入支援サービスを用意	
稼働環境 (対応サーバーOS / 対応RDBMS / 対応ミドルウェア)	次のWASおよびJDK1.4.1以上が動作するWindowsやLinuxまたはUnix / Microsoft SQL Server 2000 SP3以上、Oracle 8i以上(Oracle 8.1.7以上) / Tomcat 4.1.27以上、WebLogic 8.1 SP1/SP2、Websphere 5.1、Interstage 6.0	
管理者・運用者向けの機能	公開承認	承認段階は10段階まで、並列フローの作成も可能
	作業役割 / 権限分担	ユーザー、グループ単位で権限を細部にコントロール可能
	時間指定発行 / 時限発行	分、時、日、週などの多様な組み合わせで時間指定が可能
	世代管理	世代間でテキスト、HTMLソース、ビジュアルで比較が可能
	ステージ管理 / ロールフォワード	将来表示されるコンテンツとページの確認が可能
	サイト階層構造管理	サイト構造の作成から変更、削除、移動も可能
	リンク切れチェック	x サイト内でのリンクは自動生成されるため、リンクチェックの作業は不要
	別システムのユーザー認証利用	x
	デザインテンプレート管理	モジュールはDreamweaverなどのオーサリングツールで作成可能
	ログ解析	NOREN環境内では、操作履歴を把握するログ取得が可能
ウェブサイトで実現する機能	WYSIWYGエディター搭載	内蔵エディター以外にも任意でエディターを選択し、連携が可能
	XMLデータ処理	
	シンジケーション	シンジケーションしているコンテンツの世代管理も可能
	フィンダビリティ	コンテンツに属性を付与し、キーワードを持たすことが可能
	マイグレーション(移行ツール)	サードパーティーのツールとの連携で対応
	利用ユーザー登録	ユーザーに応じて言語設定が可能(日本語、英語、韓国語、中国語)
	サイト内検索	サイト内検索は、サードパーティーもしくはフリーの検索エンジンがすべて使用可能。NORENが管理するコンテンツの検索は可能
	業務システムとの連携	
	静的HTML自動生成	静的なページ以外にも動的ページの生成も可能
	ケータイ対応	タグや画像タイプによっては不可なものもある
アクセシビリティ基準対応	機能として持つのではなく、テンプレートの作り方により対応可能	
新着情報 / サイトマップ / ナビゲーション自動作成	サイトのガイド / グローバルナビゲーション 以外にもリンクナビゲーションなども自動生成可能	
コミュニケーション	x NOREN環境内では、ユーザーコミュニケーション用の掲示板を所有	
アンケート	サードパーティーのツールとの連携で対応	

点在するコンテンツの統合と
ウェブへの配信・情報共有を実現

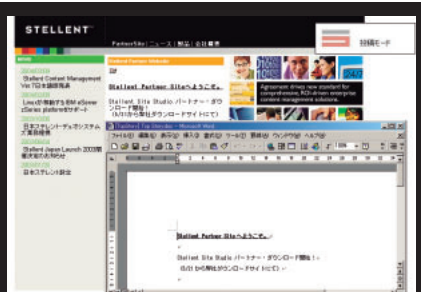
【サーバーインストール】

Stellent Universal Content Management

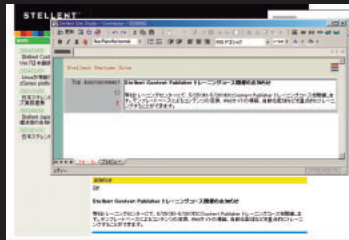
日本ステレント

URL <http://jp.stellent.com/>

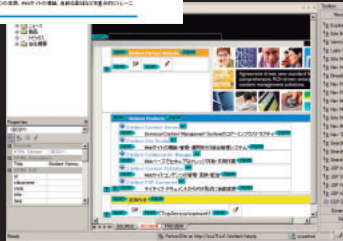
世界3500社以上の有名企業や組織にコンテンツ管理システムを導入しているステレント社は、2004年春から日本向けに展開する「Stellent Universal Content Management」の中のコアサービス「Stellent Content Server」とアプリケーションサービス「WCM」との組み合わせでウェブに特化したCMSを提供する。



ウェブサイトを表示した状態で簡単なキー操作でログインすると、投稿モードになり、編集箇所の「エディット」アイコンのクリックでツールが起動。変更したものはサイトに自動で反映される。



記事作成時に利用した編集ツールがない場合も、内蔵の専用エディターが起動。ワープロ感覚で入力できる。



サイト設計ツールの画面。サイトナビゲーションの設定はフォルダーをドラッグアンドドロップするだけで簡単に行える。

強力な変換エンジンで あらゆるデジタルコンテンツを公開

日本ステレントの「Content Server」は、ウェブページ、各種共有ファイル(文書や表、図)、メールなど、日々業務で利用されているあらゆるデジタルコンテンツを一元的に統合・管理し、ブラウザから簡単にアクセスする仕組みを提供している。あらゆる種類のデジタルコンテンツ(225種類)をウェブ上で活用できるのは、ステレント社オリジナルの強力な変換エンジンによるものだ。このエンジンは現在400社の企業にOEM供給されている。

従来ステレント社は、企業のイントラネット向けコンテンツ管理システムを主に提供してきた。この社内のコンテンツ管理インフラの上に「WCM」(Web Content Management)を追加することで、ウェブ用のCMSとして活用できる。WCMは、「Site Studio」「Content Publisher」「Connection Server」で構成され、なかでもSite Studioは、ウ

ェブサイトの作成から管理・運用を効率よくスピーディーにこなすことを約束する。

専用ツールを使わずに ブラウザ上で編集・加工が可能

Site Studioを使うと、ウェブサイトに掲載するコンテンツを作成・更新する際、サイトを表示したブラウザ上でキー操作とログインを行うだけで投稿モードとなり、ダイレクトに編集できるようになる。このとき、Microsoft Wordなど普段使い慣れたツールや、あるいは付属のエディターが自動的に起動するのでそのまま編集する。そこで加えられた変更は自動的にページに反映される仕組みだ。

また、ページ内の構成要素は部品化されており、各部分に個別に変更を加えられる。セキュリティを考慮して、ページ内の編集可能箇所を区分けし、それぞれにユーザー権限を細かく指定することもできる。つまり、ユーザーごとに表示される内容を変えることで不正な改編などを防止できるのだ。加えて、ユーザー権限はフォルダー単位でも指定でき、きめ細かな設定が可能だ。

さらに、フォルダーをドラッグアンドドロップするだけでサイトのナビゲーションを簡単に変更できる点も特徴となっている。デザインテンプレートも、GUIベースの設計画面上であらかじめ用意されたパーツを組み合わせることで、完成度の高いサイトを短時間で構築できる。

なお、ライセンスはサイト数には依存しないため、複数のサイトを運営するグローバル企業やグループ会社などでの活用に適するほか、ウェブサイトに限らず、ゆくゆくは社内のコンテンツを一元管理したいユーザーに最適だ。

製品詳細と機能対応状況

項目	回答(機能あり:、機能なし:×、オプション:)	
対象規模	部署単位からエンタープライズ系まで、すべての規模で対応可能	
ライセンス形態	投稿者数による	
価格/ライセンス形態	要問い合わせ	
オプション機能	ドキュメント・マネージメント(DCM)、コラボレーション、ファイルサービス、DAM/IRMなどのアプリケーションサービスを追加可能	
典型導入パターン	イントラネット、エクストラネット、コンプライアンス	
稼働環境 (対応サーバーOS / 対応RDBMS / 対応ミドルウェア)	Windows、Solaris、AIX、Linux、HPUX / Oracle、DB2、Sybase、MS SQL Server	
管理者 運用者 向けの機能	公開承認	ワークフロー機能あり。承認 複数段階可 されるまで公開されないように設定可能
	作業役割 / 権限分担	すべてのユーザーに異なる権限を割り当て、ワークフローなどを使って作業を分担可能
	時間指定発行 / 時限発行	リリース日や有効期限を設定することで公開期間を指定可能
	世代管理	版管理されており、過去のコンテンツに戻すことが可能
	ステージ管理 / ロールフォワード	リリース前にページプレビュー可能
	サイト階層構造管理	システム内で管理しているリンクのチェックのみ可能
	リンク切れチェック	別システムからのユーザー認証利用
	別システムのユーザー認証利用	LDAPサーバーやActive Directoryとの連携が可能
	デザインテンプレート管理	レイアウトを定義するテンプレートや変換のためのテンプレートなどを登録しておき、再利用可能
	ログ解析	ログの記録、レポート機能などはあるが、分析はしない
ウェブサイトで 実現する機能	WYSIWYGエディター搭載	WYSIWYGエディターを内蔵
	XMLデータ処理	オプションによりXML生成が可能
	シンジケーション	コンテンツサーバー内に格納されたコンテンツを複数サイトから利用可能
	ファインダービリティ	テンプレートにて自動挿入可能
	マイグレーション(移行)ツール	カスタムアプリケーションあり
	利用ユーザー登録	ユーザー認証と管理機能あり
	サイト内検索	全文検索エンジンを内蔵
	業務システムとの連携	SOAPなどにより連携が可能
	静的HTML自動生成	
	クエリ対応	同一コンテンツから変換テンプレートを定義
アクセシビリティ基準対応	テンプレートを利用して自動的に作成可能	
新着情報 / サイトマップ / ナビゲーション自動作成		
コミュニケーション	ステレント社の独自スレッドディスカッションを利用可能	
アンケート	カスタマイズ対応	

問い合わせ先

日本ステレント株式会社

TEL 03-5456-5503

jp_info@stellent.com



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp